

経営比較分析表

岐阜県 本巣市

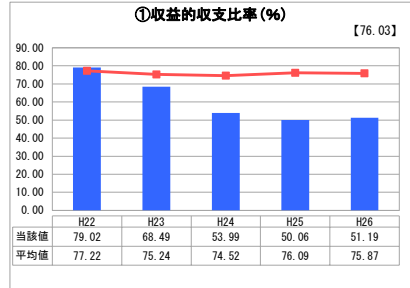
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	7.48	1,998

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
35,405	374.65	94.50
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,635	8.41	313.32

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



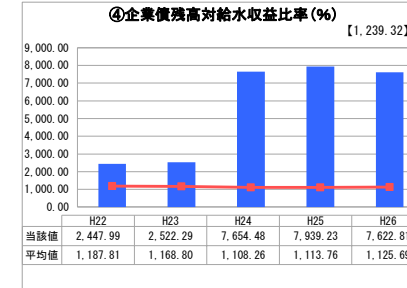
「単年度の収支」



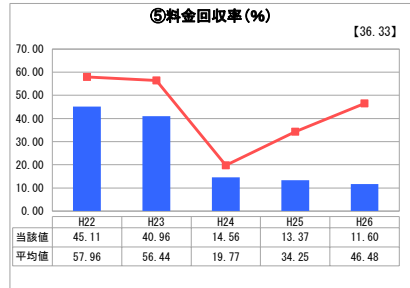
「累積欠損」



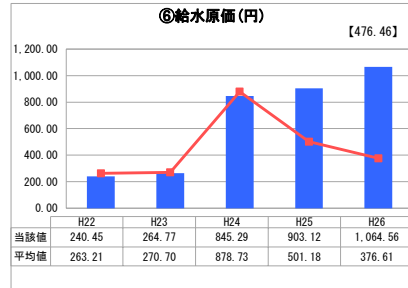
「支払能力」



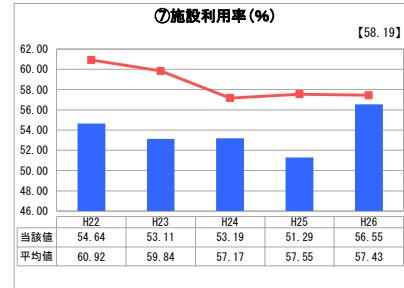
「債務残高」



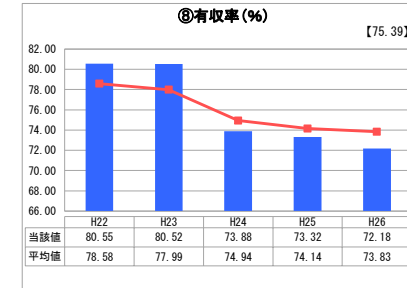
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

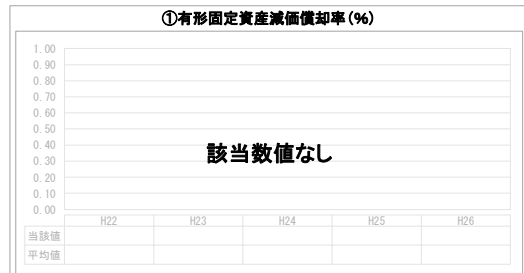


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

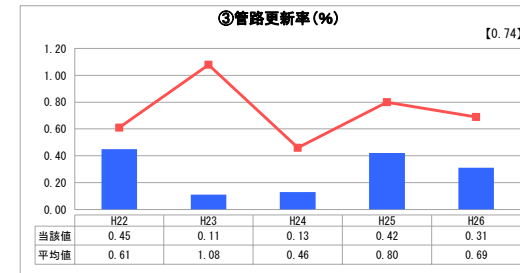
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

小規模な簡易水道事業においては、人口減少もあり収益性が低く、給水収益だけでは経費を賄うことができないため、給水収益以外の一般会計繰入金等にも頼っている現状にあります。

類似団体との比較では、給水収益に対する借入金残高の割合が、平成24年度から特に高くなっていますが、これは簡易水道の相当分がこの年から上水道事業に移行したことによって給水収益が減少したことによるものであり、平成28年度にすべての簡易水道が上水道事業に移行する予定です。

また、給水にかかる費用は、同様に相当分の簡易水道が上水道事業に移行したため、単位当たりの費用については高くなりましたが、施設の利用効率は改善の傾向にあります。

なお、供給した配水量のうち料金徴収の対象となった水量の割合については、他団体に比べてやや低くなっているため、漏水等の原因を特定する必要があります。

2. 老朽化の状況について

町村合併以来、簡易水道の統合・更新事業に基づいて、施設の整備と基幹管路の更新を図ってきており、今後も計画的に進める必要があります。

全体総括

小規模な水道供給事業として旧来から進めてきた簡易水道事業ですが、収益性が低く、経営効率も低いため、より経営基盤が高い公営企業としての上水道事業に計画的に統合を進め、効率化を図ってきており、平成27年度には市内のすべての簡易水道が上水道事業に統合され、平成28年度からは一元化された上水道事業となります。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。